

令和4年度 政策提言委員会 年間活動報告書

コロナ禍での地域経済の活性化に向けて



目次

ご挨拶	3・4
袋井商工会議所青年部のご紹介	5
今年度の活動に至る背景	6
対処すべき課題	7
今年度の事業方針	8
実施事業1 コロナ禍での経営状況アンケート調査	9
実施事業2 6月定例会「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループワーク」	10
パネルディスカッション議事録1	11
パネルディスカッション議事録2	12
グループワーク議事録	13
実施事業2総括	14
実施事業3 2月定例会「風会議 in 袋井 ~あったらいいな こんなビジネス~」	15
グループワーク方法	16
グループワーク資料	17
各グループのビジネスプラン	18・19・20
実施事業3総括	21
あとがき	22
令和4年度 政策提言委員会 主な活動実績	23
政策提言委員会メンバー	24

袋井商工会議所青年部
会長 入沢 梓

袋井商工会議所青年部(通称:袋井YEG)は袋井市内で活躍する45歳以下の若手経営者、後継者等が集う青年経済団体です。1993(平成5)年の発足以来、袋井市を中心とした地域社会の発展と経済振興に寄与するべく、自己研鑽や会員間の交流に努めて参りました。そして来年度は30周年を迎えることになりました。

今年度は「Beyond yourself」～我らの成長の先に笑顔を～というスローガンを掲げ、地域の活性化やそれに伴う人材の活性化を考え取り組んで参りました。笑顔と活気のある街づくりを目的とした事業をいくつか行い、少しはきっかけ作りになったかと思っています。地域の諸先輩方が築き上げたこの袋井という街を、より一層笑顔の集まる街のするために、今後も楽しみながらも真剣に取り組んでいきたいと思えます。

政策提言委員会が発足してから4年が経ちます。袋井YEGのなかでも働きやすさや暮らしやすさを考えて行き、そして提言することの大切さが全体に浸透してきています。そして市役所の方々や他団体、地域の方々との意見交換や連携の大切さも学びました。引き続きこの繋がりを大事にし、我々や地域の抱える様々な問題や課題に果敢に挑戦し、地域から頼られるような存在とならなければなりません。その為には勇気と情熱を持つ人材の発掘・育成が必要となります。今後も住みよい郷土作りのために各所と連携、人材育成そして活動を行っていきたいと思えます。

最後に今回の活動報告書を提出するにあたり、事業に参加して頂いた市長をはじめとします市役所職員の皆様、市内の各企業の皆様に厚くお礼を申し上げますと共に、今年度の袋井YEGの活動が袋井市や市内企業様の発展の一助になりますよう、また今後もこのような活動を続けていけますよう祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

袋井商工会議所青年部
政策提言委員会
担当副会長 長谷 廣樹

令和4年度袋井商工会議所青年部(以下袋井YEG)、政策提言委員会では、6月定例会と2月定例会を実施させていただきました。6月の定例会においては、未だ残っているコロナウイルスに対して、各企業どのような対策をしているか、どのような対策が必要かを話し合いました。

2月の定例会においては、袋井YEG以外の企業様、行政の方と一緒に、現在袋井市を盛り上げるために、必要と思う事業、イベントを考案いたしました。短時間の間でしたが、現実的な意見も出たのではないかと思います。今後の市政、YEG活動の参考になる一歩になればと思っています。

今後も袋井YEG政策提言委員会では、行政の方と、袋井市の今以上の発展ができるよう、また時代にあった問題点の解決に向けて、一緒に考えていければ、さらにより良い政策提言に繋がると信じております。

最後に、6月、2月の定例会にご参加くださった皆さん、誠にありがとうございました。引き続き宜しくお願い致します。

袋井商工会議所青年部のご紹介

商工会議所活動

- 建議・意見活動
- まちづくり事業実施活動
- 地域企業振興活動

綱領

商工会議所青年部は

地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い

次代への先導者としての責任を自覚し

地域の経済的発展の支えとなり

新しい文化的創造をもって

豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指針

われわれ青年部は

- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
- 一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
- 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
- 一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
- 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の礎となろう

令和4年度 袋井商工会議所青年部 スローガン 「Beyond yourself」～我らの成長の先に笑顔を～

設立	1993（平成5）年4月1日
会員数	88名（令和5年2月現在）
定例会	毎月一回開催（原則として木曜夜）
役員会	毎月一回開催（第一木曜日夜）



今年度の活動に至る背景

令和元年に日本国内での感染が広がり始めた新型コロナウイルスは、現在も人々の生活において様々な影響を与えています。私たちが暮らす袋井市も、祭典や花火大会などの様々なイベントの中止や、経済活動の自粛、日常生活においても人込みは避け感染対策の徹底を余儀なくされています。

経済活動が縮小せざるを得ない状況の中、どの様な業種が売上を伸ばしているのか。また経済活動が縛られる中でどの様な取り組みに活路を見出していくのか。地元企業が売上の落ち込んだ期間を乗り切ることが出来るように行政や金融機関はどの様な施策や取り組みを行っているのか。現状を知ることで、今後の経済活動に取り組むヒントとなれば、倒産や廃業を免れる企業もあるのではないのでしょうか。

現在の状況を見ると、コロナ禍においても売上を伸ばしている業種も多く存在します。世間一般で言われている「通信や物流業界」では人々は外出する機会を減らし動画通信機器を使った在宅ワークも増え、パソコン等の購入や通信環境を整えるための環境づくりも要因の一つがと考えられます。また、外出する機会を減らし、ネット通販で購入する人も増えています。ネットオークションやフリマアプリなども盛んになり宅配業務の需要も高まっています。その他、手洗いやうがい、マスクの着用はもはや必須となったため、衛生用品業界の業績も安定して高まっています。

これらの業種にかかわらず、アフターコロナを見越し他業種からの参入や、新しい生活様式に対応したサービスを視野に入れ今後の自社企業の経営に活路を見出していくことが、必要だと考えます。コロナ禍の企業や業界の現状を知り、様々な取り組みや制度を知ること、今後の自社企業の成長と発展に繋がり、地域経済の活性化の一助となることを期待して、袋井YEG令和4年度政策提言委員会の事業を計画致しました。

■課題1 対面での営業活動や交流の減少

令和4年4月に事前調査として実施した袋井市内の企業へのアンケート調査の回答では、コロナ前に比べて景気観や経営状況はどう変化しているかの問いに約7割の企業が悪い・やや悪いとの回答でした。その理由として、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の影響や取引先の倒産や発注書の減少が多くあげられました。コロナ前の通常時であれば、営業活動に力を入れ新規顧客の開拓や受注量の交渉へと舵を切るところですが、3密を避けるために対面で人と人が接触する機会は避けなければならなくなり、営業時間等も短縮せざるを得ない状況でした。ピーク時に比べ、緩和はされた雰囲気はありますが、いまだ大勢での会食やイベントでは自粛している人が多いのが現状です。いかにして受注量を落とさず、新規顧客を獲得していくのかが取り組むべき課題です。

■課題2 アフターコロナに向けて

同アンケート調査では、アフターコロナに向けての取り組みについても回答を頂きました。テレワークやオンラインでの会議や面談で接触は避けながらも顧客や取引先との関係づくりを継続したり、多角化経営や本業に関連した新規事業を発案したりと様々な取り組みを行っている企業が見受けられました。それと同時に、アフターコロナに向けて新しいことに取り組みたいと考えている企業や、特別取り組まないとする企業も多く見受けられました。行政や商工会、金融機関が行っている様々な制度を広く認知し、共有していくことが今後の企業経営の安定化を図るための課題となります。

■課題3 円安、原油高でさらなる脅威

同アンケート調査の企業様からの回答で多く見られたのが、ロシア・ウクライナ情勢から原油をはじめとするエネルギー関連の原材料費の上昇や、経済活動の再開に伴い急速な需要回復への対応に向けての回答も多く頂きました。受注は回復の兆しもあるが、急激な円安や原材料費の高騰が足かせとなり、いかにして価格転嫁を図っていくのか。今後の大きな課題となっています。

今年度の事業方針

令和4年度政策提言委員会では、コロナ禍での地域経済の活性化に向けて、本年度のスローガン「Beyond yourself」～我らの成長の先に笑顔を～を基にコロナ禍で冷え込んだ地域経済を活性化させるためには何が必要か考え、計画し、下記の通り実行して参りました。

- ① 地域経済の現状の把握として袋井市内企業へのアンケート調査 ※別紙アンケート調査結果参照
- ② 6月定例会「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループワーク」
- ③ 2月定例会「風会議 in 袋井市 ～あったらいいな こんなビジネス～」
- ④ 市内企業へ定例会の出席依頼及び現況のヒアリング

コロナ禍で冷え込んだ地域経済を活性化させるためには、我々YEG内だけではなく、大企業、中小企業の垣根を超えた新たな取り組みが必要だと考えました。新たな取り組みを行う上で、まずは事前調査として、コロナ禍において影響を受けた業種や業界、企業の現況や取り組みについて知ることが必要だと考え、袋井市内の企業へ向けたアンケート調査を行いました。

アンケート調査の結果をより深掘りし、市内の企業の取り組みを学び自社企業に落とし込むために、6月定例会として「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループワーク」を開催いたしました。6月定例会で得た学びを基に、2月定例会ではより地域経済の活性化につながるように袋井市内の企業と行政を交えた「風会議 in 袋井市 ～あったらいいな こんなビジネス～」を行い、袋井市の新たなビジネスの創出を皆で考え話し合いました。

これらの事業を行う中で、行政との連携を強化し、地域の経済的発展の一助となることを期待して、次年度以降の取り組みにつなげて参ります。

実施事業1 コロナ禍での経営状況アンケート調査

今年度の事業を計画するにあたり、令和4年4月現在の袋井市内の企業の現況を知ることが必要だと考え、袋井商工会議所会員企業966社に案内を送り、内164社から回答を頂きました。各社の回答を別紙にまとめましたので、別紙ウィズコロナ・アフターコロナに向けてアンケート調査結果をご参照ください。

実施事業2 6月定例会「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループワーク」

6月定例会では、4月に行ったアンケート調査の結果を基に、地元企業の現在の状況やコロナ禍の中で行ってきた取り組みを共有し、これからの企業経営についての打開策を皆で考え、共に乗り越えていくきっかけづくりを目的として行いました。

袋井市内で活躍している企業様、副市長様をパネリストに迎え「コロナ禍の影響と現在、未来への取り組み」をテーマにパネルディスカッションを行い、袋井商工会議所青年部メンバーでグループワークを行いました。

日時:令和4年6月16日(木) 19:00~21:30

会場:袋井新産業会館「キラット」

パネルディスカッションテーマ『コロナ禍の影響と現在、未来への取り組み』

【パネリスト】

袋井市	副市長	鈴木 茂 氏
株式会社西山技研	代表取締役社長	西山 智 氏
株式会社ひしだいパックス	代表取締役社長	寺田 光良 氏
丸尾興商株式会社	専務取締役 経理部長	豊田 浩子 氏
袋井商工会議所青年部	会長	入沢 梓 氏

【ファシリテーター】

フリーアナウンサー 加藤 章恵 氏

【参加者】

袋井商工会議所青年部メンバー	39名	
袋井市役所職員	5名	
パネリスト	4名	(入沢会長除く)
司会	1名	
オブザーバー	10名	
事務局	1名	計60名



【パネルディスカッションテーマ】 コロナ禍の影響と現在、未来への取り組み

セクション1. WITHコロナの現状

西山氏・自動車業界は「100年に1度の変革期」の真っ只中であり、そこにコロナが重なった。昨年未くらいまで影響が強く、雇用調整助成金を利用し社員に一時帰休をさせることが多かった。面会制限の会社が多く、既存顧客との面談、新規顧客の開拓が難しかった。リモート面談も利用したが、効率は低下した。業界全体がコロナの影響で新機種の開発が停滞したが、現状は業務への影響はある程度収束している。自動車業界内で顧客数を増やし、今までと異なる分野の製造を請けることで受注幅を広げた。自動車業界特化から、設備と技術を活かし異業種の依頼も積極的に受けるよう変化させた。

寺田氏・緊急事態宣言後、ホテル旅館、飲食業を中心に大幅に受注が減った。ホテル旅館業は受注の戻りにばらつきがある。①社員とその家族の感染防止、②健康経営、③BCP事業継続計画、④各種補助金の申請に取り組んできた。

豊田氏・テレワークの出来る環境を構築するため、システム、セキュリティ、業務の見直しと改善を進めた結果、時間や経費が削減され、効率化が進んだ。コロナ禍、ロシアの軍事侵攻、中国のロックダウンなど、もろもろの影響から、原材料の高騰、納期の遅延など影響が出ている。

入沢氏・コロナ禍に伴う物流の制限により、資材の入荷が遅れ、仕事の完了が遅れることで、資金繰りに苦労した。持続化給付金などが役立った。接触を拒むお客様や、取引先もあり、打ち合わせや作業の遅延もおきた。同業者と協力して、互いに資材を融通することで、資材不足の影響を抑えた。

鈴木氏・袋井市の現状や取り組み、コロナ前からの変化についての情報共有。

総括・各社の現状について情報共有を行い、それらの取り組みについて社内外の反応など、クロストークを行った。

【パネルディスカッションテーマ】 コロナ禍の影響と現在、未来への取り組み

セクション2.WITHコロナでの今後の取り組み

西山氏・自動車業界では電動化やIT化など大変革の時期であり、部品開発に費やす予算削減は避けられないため、○顧客数の拡大、○受注分野の拡大、○納期、品質、コストに対する競争力の強化に取り組んでいく。また既存ノウハウを活かした異業種への進出を進め、現在アウトドア事業の販路拡大を進めている。

寺田氏・日本茶、健康茶、ハーブ系のお茶のティーパックは今後の成長市場。パートナー企業との関係強化。ユーザーが求める思考飲料の開発や提供。海外への輸出に力を入れていく。

豊田氏・効率化できたものは、元に戻ることはなく継続されていく。人材確保もAIを利用した面接で、応募が2倍に増えた。社員教育、専門に特化した社員を多能工化することに力を入れ、営業力を強化することで業務改善を行っている。今は堅実に足元を固めていくことが大切と思っている。

入沢氏・ライフスタイルの変化から、在宅時間が今後長くなることを見込んでいる。在宅時間が長くてもストレスを最大限軽減できる、お客様に寄り添った家づくりをしていきたい。

鈴木氏・袋井市のこれからと、企業の取り組みや戦略を受けて。

総括・各企業の今後の展望、取り組みを受けて、これからの袋井市に期待することや、袋井市を活性化させるために、どのような取り組みが必要か、クロストークを行った。

6月定例会 グループワーク【コロナ禍の影響と現在、未来への取り組み】

6月定例会後半ではパネルディスカッションを受けて、袋井商工会議所青年部メンバー一人一人に「自分事」として、落とし込むために同テーマで、自社の現状や課題、コロナ禍での取り組みを共有し、未来へ向けてこれからの取り組みについて話し合いました。グループワークでは下記のテーマについて話し合い意見が共有されました。

※多数の意見が共有されましたので、別紙資料6月定例会グループワーク議事録をご参照ください。

【参加企業 業種別人数】

建設業15名、飲食業6名、製造業1名、生活関連サービス業16名、金融1名。

WITHコロナの現状 『コロナ禍で自社が受けた影響』『コロナ禍においての今までの取り組み』

WITHコロナの今後の取り組み 『今後の自社業界で予想される変化』『今後計画している取り組みや、取り組みたい内容』



6月の定例会「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループワーク」は長期化するコロナ禍の中、地元企業の現在の状況やコロナ禍の中で行ってきた取り組みを共有するという目的で行わせていただきました。

- 定例会の主な中身としましては、
- ・袋井YEGメンバー、親会、OB会を中心とする市内企業へのアンケート調査の結果報告
 - ・市内を代表する企業の代表者と3名と鈴木副市長、当会会長によるパネルディスカッション
 - ・市役所職員と袋井YEGメンバーによるグループワーク
- となりました。

上記の活動を通しまして、全体として市役所や市内企業が今までどのような影響や課題に向き合ってきたか、どのように対応をして乗り越えようとしてきたかを参加者同士で共有することができ、とても有意義な定例会となりました。

上記の通り、定例会を行う以前には、まずは事前の情報収集のため、袋井YEGメンバー、親会、OB会を中心にアンケート調査も行いました。回答頂いた市内企業の中でもとりわけ積極的なご意見や興味深い回答を頂いた市内を代表する企業の代表者の方に、パネルディスカッションのパネリストやオブザーバーとしてご参会頂くことで、普段活動している会員同士での議論だけでなく、様々な分野の企業や市役所から見た現状を伺う機会となりました。とりわけ鈴木副市長にもご参加頂いた市内を代表する企業の代表の方々、当会会長とのパネルディスカッションは、熱く盛り上がりとても内容の濃いディスカッションとなりました。

定例会の進行のなかでの全体的な印象としましては、コロナ禍の影響を大いに語るような議論は少なく、どの市内企業もコロナ禍による変化を前向きに捉え、会社組織の組み換えや働き方の見直しなど前向きに変化をしようと試みている企業が多いという印象を受けました。全体を通じて、コロナ禍を乗り越えるための情報共有の場として、とても有意義な定例会となりました。

実施事業3「風会議 in 袋井 ～あったらいいな こんなビジネス～」

2月定例会では、コロナ禍で冷え込んだ地域を活性化させるために、地元企業の長所と地域資源を活かした「地域ブランド」となる企業、事業の構想を、袋井商工会議所青年部メンバーと市内企業の代表者、袋井市役所の職員で共に考え話し合いました。

審査員として、袋井市市長、袋井商工会議所会頭、金融機関代表をお招きし、真剣に「あったらいいな」を考え5グループのビジネスプランと様々なアイデアを創出しました。

日時:令和5年2月16日(木) 19:00～21:30

会場:レスパランス

グループワークテーマ『あったらいいな こんなビジネス in 袋井』

【審査員】

袋井市	市長	大場 規之 氏
袋井商工会議所	会頭	豊田 浩子 氏
島田掛川信用金庫	地方創生部部長	鈴木 康司 氏
遠州中央農業協同組合	統括部長	松家 秀敏 氏

【市内企業参加者】

株式会社創建	専務取締役	鈴木 将規 氏
水月	代表	鈴木 隆彦 氏
ちゃんこ富士司	代表	名倉 澄雄 氏
株式会社ヒーローズアカデミー	代表取締役校長	山本 泰子 氏
株式会社愛ノ宮	代表取締役	大石 隆久 氏

【参加者】

袋井商工会議所青年部メンバー35名、袋井市役所職員5名、事務局1名 計50名



グループワーク方法

各テーブルにYEGからファシリテーター1名を置き、YEG6～7名、市役所1名、市内企業1名の8名程度の5つのグループに分かれて実施。

グループワークテーマである「あったらいいな こんなビジネス in 袋井」を念頭に、袋井市の地域資源が掲載している冊子やスマートフォンでの検索から、袋井市の地域資源を活用してビジネスプランを創出。

具体的でリアリティのあるプランを目指して、グループ内で協議し、ワークシートにまとめる。市内企業参加者、市役所職員は適切にアドバイスを行なう。

各グループの代表者が審査員に届くよう想いを込めたプレゼンテーションを実施する。

各グループのプレゼンテーションを聞き、審査員は質疑応答を交え審査して採点表の記入を行なう。

最優秀グループには、景品を贈呈する。

地域資源冊子・・袋井市まるわかりブック、ピクロイ、袋井ほっと観光、東海道五十三次どまん中袋井宿
 グループワーク資料・・ワークシート、ワークシートガイドライン、ワークシート記入例、採点表



～あったらいいな こんなビジネス in 袋井～
ワークシート

グループ名	グループ	発起者名
事業形態	<input type="checkbox"/> 継続的経営事業(企業等)	<input type="checkbox"/> 単発的イベント事業(フェスタ等)
企業名・事業名	業種・分野(地域産業等)	
事業場所(企業所在地)	活用資源	
起業目的(目的)		
資金調達方法	<input type="checkbox"/> 個人(融資) <input type="checkbox"/> クラウドファンディング <input type="checkbox"/> 仲間	
事業内容(方法)		
効果(何を得られるのか?)		

【記入例】
～あったらいいな こんなビジネス in 袋井～
ワークシート

グループ名	Aグループ	発起者名	袋井 太郎
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 継続的経営事業(企業等)	<input type="checkbox"/> 単発的イベント事業(フェスタ等)	
企業名・事業名	ハンバーガーショップ	業種・分野(地域産業等)	フードコングレスト
事業場所(企業所在地)	袋井市内各所	活用資源	袋井宿並木 市内飲食店の生鮮野菜及び食品
起業目的(目的)	・遠州袋井市及び市内生産の生鮮野菜、食品の普及 ・市内飲食店の活性化させる ・市外からの観光による外貨獲得		
資金調達方法	<input type="checkbox"/> 個人(融資) <input type="checkbox"/> クラウドファンディング <input checked="" type="checkbox"/> 仲間		
事業内容(方法)	・ハンバーガーの部、ハンバーグの部でコンテストを開催し、市内飲食店に委託してもらう ・賞金は参加者から参加料を徴収する ・遠州袋井市及び市内生産の生鮮野菜、食品を使用し、各店オリジナルのハンバーガー(1,500円以下)、ハンバーグ(1,800円以下)を作り、1ヶ月のコンテスト期間中に販売し、投票者に選んでもらう ・観点は項目で分け、ネットを利用したフォームに入力するか専用紙に記入し、市役所・コミュニティセンター・郵便局の特設箱に入れてもらう ・1ヶ月間の稼働を続け、結果はネットのフォーム、市役所、コミュニティセンターなどに掲示または掲載する		
効果(何を得られるのか?)	・遠州袋井市及び市内生産生鮮野菜の知名度を上げる ・イベント(フードフェアの開催等)を通じ市内飲食店が活性化し、市外から多く観光客を呼びこむ		

～あったらいいな こんなビジネス in 袋井～
ワークシート(ガイドライン)

グループ名	グループ	発起者名	
事業形態	<input type="checkbox"/> 継続的経営事業(企業等)	<input type="checkbox"/> 単発的イベント事業(フェスタ等)	
企業名・事業名	業種・分野(地域産業等)		
事業場所(企業所在地)	活用資源		
起業目的(目的)	「あったらいいな!と思う事業」について・・・ ・どうしてそう思ったの?(背景) ・モノ作り(継続的経営事業) ・コト作り(イベント事業)		
資金調達方法	<input type="checkbox"/> 個人(融資) <input type="checkbox"/> クラウドファンディング <input type="checkbox"/> 仲間		
事業内容(方法)	「あったらいいな!と思う事業」について・・・ どうやってやるのか? 誰とやるのか?		
効果(何を得られるのか?)	「あったらいいな!と思う事業」をやると・・・ こんなことが起こるのでは!		

採点表

(公営点)

5
4
3
2
1

発起者点 (得点性)

実現可能性 (得点性)

公営性: 1元単位(袋井市)の特色の活用または外題に繋がると
 得点性: 事業が成長し、1円以内
 実現可能性: 事業が継続的に実施される
 発起者点: 1円以内から事業が実行されるか
 実現可能性: アイデアとして、誰にでもできるか

A・Bグループ ビジネスプラン

Aグループ ビジネスプラン

事業名 袋井どまん中パーク
事業形態 継続的経営事業
業種 地域商社
事業場所 沖山梨or久津部
活用資源 総合
資金調達 個人

起業目的(目的)

- 来訪者の消費額を増やす。
- 観光客を増やす。
- 長期滞在者の増加

事業内容(方法)

- 袋井の交流拠点の場を作る。
- 地域発信基地を作る。

効果(何を期待するのか?)

- 袋井のシンボルになる。
- 地元に魅力を感じ、地域の人々が誇れる。
- 長期滞在者の増加に伴い外貨獲得につながる。

Bグループ ビジネスプラン

事業名 袋井カリフォルニア化計画
事業形態 単発的イベント事業
業種 造園、開発
事業場所 同笠エリア周辺
活用資源 海、防潮堤
資金調達 協賛、出展料、寄付、選手参加料等

起業目的(目的)

- 袋井市に人が集まる人気スポットを作りたい。
- 「映える」「おしゃれ」「かっこいい」で人が集まる。
- 子供が楽しめるイベントスポット

事業内容(方法)

- ヤシの木1000本、植樹イベントの開催。
- サーフィン大会の誘致。
- バイクコンテスト。
- サイクリング大会。
- スケートボード大会など企画。

効果(何を期待するのか?)

- 人が集まる。
- 子供が地元を好きになる。
- 袋井が楽しいまちになる。
- 袋井を「全国区！」にする。
- 袋井のメロンに次ぐ特産物にヤシの実が追加される。

Cグループ ビジネスプラン

事業名 同笠海岸再生プロジェクト
事業形態 継続的経営事業
業種 海道のえき
事業場所 袋井市浅羽地内
活用資源 同笠海岸、地場産品
資金調達 個人、クラウドファンディング

起業目的(目的)

- 同笠海岸周辺の活気を作る。
- 特産物の販売をして浅羽地区を中心に生産者へ利益をもたらす。

事業内容(方法)

- 海道のえき(R150号沿い)
- 地場産品を使った食事処。
- シャワールーム、トイレ、大型駐車場1000台。
- 特産物の販売。
- 食事が出来る釣り堀。
- 映えスポット(巨大ブランコ、どこでもドア、巨大モニュメント)
- BBQスポット。砂風呂

効果(何を期待するのか?)

- 地元の生産者が潤う。
- 袋井の知名度アップ。
- 移任者が増える。

Dグループ ビジネスプラン

事業名 袋井給食サービス
事業形態 継続的経営事業
業種 サービス業
事業場所 各市内地区
活用資源 空き家、袋井給食センター
資金調達 個人

起業目的(目的)

- 袋井市内で採れた生鮮食材と空き家を同時に活かしたい!
- 一人暮らしの方や、高齢者に健康的な食事を届けたい!

事業内容(方法)

- 給食センターに委託して夕食・弁当を作ってもらい各地区の空き家を利用した店舗で販売する。(高齢者の多い地区を優先的に空き家を探す。)
- 高齢者のコミュニティの場。

効果(何を期待するのか?)

- 空き家の活用(治安や景観維持)
- 袋井の給食を通じて「日本一健康都市」としてPR。
- 雇用促進。
- 地産地消。
- 高齢者がバランスの良い食事を摂ることで健康的に過ごせ、医療費や介護費が減る。

最優秀グループ

Eグループ ビジネスプラン

事業名 どまん中袋井リゾート制作委員会

事業形態 継続的経営事業

業種 ホテル旅館業

事業場所 小笠山

活用資源 エコパ・小笠山

資金調達 エンジェル投資家

起業目的(目的)

- エコパなどに人が集まっても掛川、浜松に人が流れていく現状を変えたい。(背景)
- 袋井を日本を代表とする一大観光地にして県外、海外から集客し外貨を獲得できる城下町を作りたい。

事業内容(方法)

- リゾートホテル
- ランドリー充実、レストラン街、キャンプ場、ドッグラン、アウトレット、ゴルフ場。
- そこで出た生ゴミで堆肥を作り、お米や野菜を作る。
- 袋井野菜、袋井米ブランドを作り、市内のファーマーズマーケットや飲食店で使う。

効果(何を期待するのか?)

- 外貨獲得。
- 循環型社会の形成。
- 雇用が生まれる。
- 人口増加。
- スタートアップ支援。
- 袋井を全世界へ周知させる。

その他の意見

- クラウンメロンジュース袋井PRキッチンカー。
- ファミリー向け釣り堀食堂。
- 同笠海岸に御前崎マリーナの様な遊泳可能エリアをつくる。
- 同笠海岸にサイクリングコースとレンタル自転車店舗を作る。
- 旧東海道に宿泊施設。
- 犬専用ホテル。
- ボーリング場で合コンイベント。
- 屋外コンサート会場。
- 健康ウォークロード(公園内に足つぼロード)
- どまん中ブルーベリー。
- 風鈴、ガラス細工活用。
- ゆるキャンで取り上げてもらう(パクチーを使った料理、お酒)
- 国香の酒粕から化粧水

袋井商工会議所青年部
政策提言委員会
副委員長 宮地 拓郎

6月定例会のコロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッションとグループワークや、その事前調査として市内商工会会員企業を対象に行った、ウィズコロナ・アフターコロナに向けてのアンケート調査で出された意見の中で、特に多く聞かれた「地場産業の発展」と「官民共創」について、より現実的なものするために今回のグループワークを設営しました。

グループワークでは、YEGメンバーや参加した市内企業の皆さんから、それぞれの職業の長所や数多くある地域資源とを絡め、稼ぐ地域づくりを念頭においた新たな「袋井ブランド」の構想案が共創され、地域の発展に繋がるようなアイデアや意見が多く出されました。

また、市役所職員の皆さんからは、行政の観点からみた事業に対する方向性など、行政としてのアドバイスを頂くことによって、地域の抱える問題点の解決に一步踏み込んだ意見交換が実現し、非常に有意義な話し合いの場となりました。

審査会では、袋井市長、袋井商工会議所会頭、各金融機関代表の皆様から、それぞれの立場から異なった見解を聞くことができ、事業者として、また地域の住民として、地域の発展についてより深く考えることが出来ました。

定例会を通し、開催目的であった「官民共創」の実現とともに、参加者一人ひとりが地域の発展を自分事と考え、地域経済に対する関心を高めると同時に、地元で活気を持たせようとする思いを参加者全員で共有することができました。

私たちが生活する袋井市でも、新型コロナウイルスと共生する生活が早3年経過しようとしています。子供達は多くの場面でマスクを着用し学校内の友達や先生方の素顔を見る機会の少ないまま成長していきます。大人たちは対面での接触を避け、リモートワークなどを活用し新たな生活様式にも慣れてきた頃かと思います。

我々袋井商工会議所青年部の活動も自粛ムードが長く漂っていました。会議はZOOMを活用し、定例会は中止、または延期になることもありました。当然懇親会などの交流の場はさらに減少し、積極的な活動に後ろ向きな意見も多くありました。

我々は中小企業や小規模事業者の集合体です。現在の状況が続けば会員企業の何社かは倒産や廃業に追い込まれる可能性も大いにあり得ます。それならば前を向いて、工夫し、アイデアを出し合い、行動することで活路を切り拓いていくことが重要だと考えます。袋井市内の企業が行政と共に知恵を出し合い、意見を交わしあうことで地域経済の活性化に繋がる一助となれば幸いです。

これからの袋井市の未来に向けて、商工会議所青年部の綱領・指針にもあるように、地域を支える青年経済人として、自社の発展だけでなく、地域経済の発展にも貢献できるように先導者たる気概で研鑽に努めて参ります。

また、令和4年度政策提言委員会の活動に共感し、協働し、ご協力頂いたすべての方へ心より感謝を申し上げ、あとがきのご挨拶とさせていただきます。

令和5年2月22日
袋井商工会議所青年部
政策提言委員会 委員長
川村 佳功

令和4年度 政策提言委員会 主な活動実績

令和4年4月	袋井商工会議所会員企業へ「コロナ過での経営状況アンケート調査」の実施
令和4年6月16日(木)	6月定例会「コロナ禍を乗り越えるためのパネルディスカッション&グループ」開催
令和5年2月16日(木)	2月定例会「風会議 in 袋井 あったらしいな こんなビジネス」開催
令和5年2月	令和4年度政策提言委員会 活動報告書の作成
令和5年3月	活動報告書を袋井市長、袋井商工会議所会頭へ届ける
令和5年3月	次年度政策提言委員会への引継式
通年	定期的な風会議、市内企業への定例会の出席依頼及び現況のヒアリング

	名 前	役 職	事 業 所 名
1	長谷 廣樹	副会長	M&T
2	川村 佳功	委員長	(株)青空クリーン
3	豊田 侑	副委員長	丸玉(株)
4	宮地 拓郎	副委員長	宮地建築
5	青木 夏奈	委員	スナックエスポワール
6	太田 郷志	委員	太田建装
7	村主 哲也	委員	(株)九州屋
8	鈴木 恒太郎	委員	(株)袋井清掃
9	鈴木 翔也	委員	KOTA CAFÉ
10	鈴木 貴之	委員	(株)内山塗装
11	寺井 良太	委員	寺井塗装
12	日比 美香	委員	花&花
13	山本 龍典	委員	山美商店(株)

令和5年3月発行

袋井商工会議所青年部 政策提言委員会

編集担当者：政策提言委員長 川村 佳功

事務局担当：袋井商工会議所 岩崎 直樹